認識コントロール

自然に認識するものではなく、意識して認識する対象を持ち、範囲を広げていく。

意識	無意識	習慣的無意識	習慣的意識	意識	知覚的意識
		意識			
	無意識				
認識	残像的認識	行動習慣認識	習慣的認識	意識的認識	知覚的認識
	前提認識――錯誤範囲		活用認識		
	他に対して責任を持たず、個人生活を主体にしている場合			意思決定が必要で他に対して責任をもっている場合	
	認識が遅滞し、気づかない場合が多い。	限定した範囲で認識する。	理解するが適応しにくい。	活用・適応できる。	変革できる可能性がでる。
	新規性に対しての認識姿勢の特徴				
	否定する	確認しながら否定する		第Ⅰ象限にあることを確認する。	
	自らの周辺に止まらず、外の状況、直接関わりのないところを視るように心掛ける。		状況が常に変化していると考え、視るようにする。	自らの知識・技術をより確かなものにする。	アプローチ、方法についてについて考えるようにする。

より発展する方法

copyright SeedWin